

E—4 たたみの長所、短所の評価について
—日本間、たたみの志向性について(その4)—

大阪市大家政 上林 博雄
北浦かほる
前原 匡子
○山下 公子

1. はじめに：本一連論文(その1)では日本間に対する志向を調べその意識を明らかにした。この小論では、床材としてのたたみに対する評価を求め、日本間志向との関連を検し、逆にたたみの上に常用される敷物の目的意識よりたたみの評価の吟味を行なった。本研究の成果は、我国特有のたたみ座の性格を明らかにすることによって、将来の住生活の変化を予測する指針となるであろう。

2. 床材としてのたたみの評価：発表時に示すような床材としてのたたみの長所及び短所を示す項目を作り、女子大生約350名について本人と両親を対象に多項目選択形式で調査した。(以下敷物についての調査対象も同様である。)集計結果よりたたみ座の生活様式の良さを示す項目、ついでたたみの感触の良さを示す項目の指摘が最大であった。全般的にたたみの短所よりも長所を指摘しているが、その割合は、父親において最も多くなっている。日本間志向との関連は、母親について本人にその相関が認められる。

3. たたみ間の敷物について：調査住戸の約半数がカーペットや上敷類を用いている。その理由は、座敷・客間においては、雰囲気をもっとリッチにするため、居間・茶の間においては夏冬の温度感覚をもっと満足させるため、子供室においてはたたみを保護するため等が優先していた。これらの理由から考えると床材としてのたたみの位置は必ずしも安定したものであるといいがたいと考えられる。